

鴻池新田会所が約2年半ぶりに再オープン
 ↳ 国指定史跡・重要文化財の歴史的施設が一般公開を再開



東大阪市の国史跡・重要文化財である鴻池新田会所。令和5年からの約2年半に及ぶ耐震補強を含む保存修理工事を終え、昨年10月に一般公開を再開した。

同会所は宝永期（1700年代初頭）に大阪の豪商・鴻池善右衛門宗利が新田開発を進めた際の管理事務所を起源とする歴史的建造物である。本屋・米蔵・道具蔵・屋敷蔵・文書蔵などの建物群は国の重要文化財に指定されており、江戸時代の様子を伝える貴重な史跡となっている。

会所敷地の東側は、弁天池を中心とした池泉回遊式庭園（約2,600㎡）として整備され、橋や石組、樹木の配置などが見どころで、四季の風景と歴史的空間の両方を楽しめる。また、道具蔵では当時の農具をはじめとした民具の展示を通じて、江戸時代の新田開発や農業・暮らしの様子がわかり、訪れるだけで昔の人々の日常を学ぶことができ、当時にタイムスリップしたような気分になれる。

公開再開後は、会所の役割や鴻池家

の新田開発の歴史を解説するガイドツアーをはじめ、企画展示・歴史講座・河内木綿の織り体験などの伝統体験会が開催されており、実物資料に触れながら歴史を学ぶ機会は教科書では得られない臨場感をもたらすと、多くの参加者から好評を得ている。

鴻池新田会所は文化財としての保存を重視しながらも、積極的な活用を図ることで、地域住民や学校教育、観光客との接点を広げ、今後ますます歴史の語り部としての役割が期待される。

